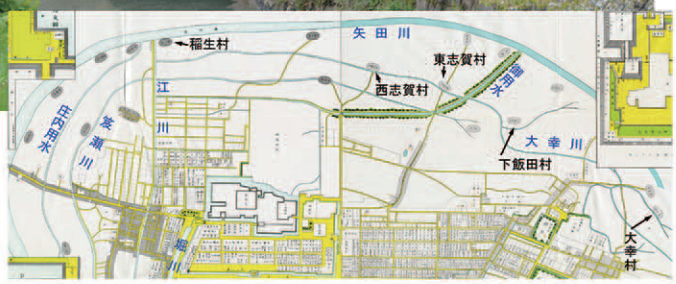
9 黒川　昭和の大改修

猿投橋にある3m程の落差工は、昭和初期に生まれた。名古屋の発展とともに城北地域も市街地になってきたが、浅い黒川では十分な排水ができなかった。昭和6～8年に朝日橋から猿投橋の区間を3m程掘り下げ、護岸の築造なども行われた。これによって工事終点の猿投橋に落差ができたのである。

10 大幸川の痕跡…大幸幹線排水路



猿投橋の東南河畔に口が開いているのは、下水の大幸幹線だ。かつては東区大幸町あたりから西へと流れて笈瀬川に注ぐ大幸川という川があった。城北地域の幹線排水路だが、氾濫して大水害を引き起こした。このため、天明4年（1784）から翌年にかけてこの場所から堀川の朝日橋まで水路を掘り、堀川へ流れるようにした。この新しい水路は明治9年の黒川開削の時に改修されて黒川の一部になった。昭和初期の下水道整備により、ここから上流の大幸川は暗渠になり下水の大幸幹線になった。平成17年から鍋屋上野浄水場の作業水をここで堀川に注ぎ、水質改善の一助にしている。

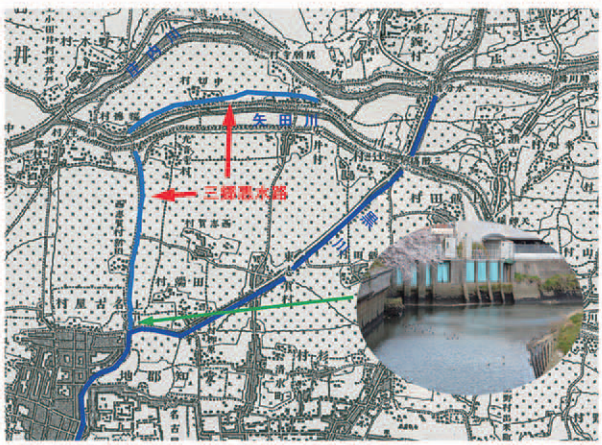
11 黒川橋

小さな橋なのに川の名が付いているのは、架けられた時は幹線道路の稲置街道が通っていたからだ。犬山（稲置）・中山道と名古屋を結ぶ尾張藩が定めた街道が稲置街道。明治10年に黒川が開削されると、川沿いの道がバイパスとしてよく利用されるようになった。

12 黒川船溜（昭和58年）

明治19年から大正13年まで、犬山と名古屋を結ぶ船を愛船株式会社が運航していた。黒川橋下流は船溜（ふなだまり）になっており、荷揚げをした船頭たちが舟を舫（もや）いひとときの憩いをとった。今は埋められて「北清水親水ひろば」になっている。

13 三郷悪水路と三郷ゲート



昭和の初めまで矢田川は今より南を流れていた。庄内川と矢田川に囲まれた福徳・中切・成願寺の3つの村は排水が難しく、矢田川の川底を伏越でくぐり、大幸川（黒川）へ排水していた。三郷悪水路は下水の整備で三郷幹線に変わり、大雨の時には名城公園北西にあるゲートから雨水を排水して、浸水から守っている。（地図は明治22年）